



Newsletter No.82

2019年11月10日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

声を上げることからはじめよう！ —アベ終わらせるチャンス到来—

2019年も終わりに近づいているが、安倍政権の暴走が続いている。国際政治では「韓国敵視」政策、自衛隊の中東派兵と「戦争する国」へ一直線だ。国内では、消費税は10%になり生活はアップアップ。年金も削られっぱなし。労働現場はパワハラ・いじめ・長時間労働が蔓延している。一方、安倍改造内閣は発足2か月で、菅原経産相・河井法相とドミノ辞任が始まり、萩生田文科相も「身の丈」発言でボロボロになっている。腐りに腐った安倍長期政権を終わらせるチャンスが到来している。ここは野党・労働者・市民の出番である。レイバーネットも小さなチカラだが、ウェブサイトで、レイバーネットTVで、レイバーフェスタで声を上げていきたい。

●マスコミが「やらない できない」報道

月一回放送のレイバーネットTVの注目度は高まっていて、アクセスが増えている。6月の「オリンピックおことわりTV」では、いち早く「商業主義・国家主義」の五輪を批判したが、マスコミが「やらない できない」重要な報道を行ってきた。7月の「どうする どうなる！参院選大ディスカッション」ではメディアに無視されていた「れいわ新選組」をとりあげた。この番組のアーカイブ視聴数は6500を超え、また7月21日のれいわ参院選開票動画のアクセスも84000に達した。9月には、安倍の嫌韓政策で日韓関係が最悪な中で、「日韓“ピープル to ピープル”でいこう」を訴える番組を放送した。ゲストの菱山南帆子さんは、訪韓報告で「韓国市民の訴えたいのは“NOアベ”であり、各国の人たちは安倍首相を“世界の平和の阻害物”と認識している」と語ったが、世界ではアベのほうに孤立しているのである。また9月7日には市民有志の「一緒に生きよう！～日韓連帯アクション」(写真上)が渋谷であり、在日三世の訴えを記録した動



画が大きな反響を呼んだ。そして、10月のレイバーネットTVでは原発問題を取り上げた。「底なし沼“原発”はいらない！～東電刑事裁判“無罪判決”と関電マネー」と題した特集で、おしどりマコさんは「原発汚染水は海に流さなくてもいい！」との衝撃レポート行った。

10月からは新キャスターに末武あすなろさんを迎えて、ますます賑やかになったレイバーネットTV(写真上)。あなたも一緒に番組づくりをしませんか？取材スタッフ、放送スタッフを募集しています。

<レイバーネット 2019 年の活動案内>

1 レイバーネットTV

● 145号放送: 11月20日(水)

この「働き方 おかしくない?～名ばかり「事業主」の現実」(仮)

出演＝クリーニング店長組合、ウーバーイーツユニオンほか

場所＝スペースたんぽぽ (19.30～20.45)

視聴サイト＝http://www.labornetjp.org/tv

● 146号放送: 12月11日(水)

ことしの一押し 本と映画 (予定)

2 レイバーフェスタ 2019

12月21日(土) 10時15分～16時50分
田町交通ビル 6F ホール

3 ブッククラブ 11月10日『人間の経済』

4 シネクラブ 11月30日 作品未定

5 『反戦川柳句集』出版シンポジウム報告集

5月19日の感動的なシンポジウムが冊子になりました。

反戦川柳づくりのヒント満載。高鶴礼子・宇部功・寺内徹乗・榎沢健の

各氏が大いに語っています。12月21日発刊。一部500円(+送料180円)。

事務局までお申し込みください。

●レイバーフェスタ 2019に参加しよう！

毎年恒例のレイバーフェスタ、ことしは12月21日・田町交通ビル6Fホールで開催する。ドキュメンタリー映画『東京干潟』、公募川柳入賞作発表、音楽「世界の闘いの歌～歌って踊ってリボルーション」、寸劇「メトロコマース版・女三人吉三 続編」、映像『関西生コン弾圧事件』『がんを育てた男・その後』、3分ビデオ発表、など見逃せない企画が続く。ぜひあなたも参加し声を上げよう！

★映画紹介 ドキュメンタリー映画『東京干潟』(村上浩康監督・2019年・83分)

東京に干潟があるのはご存じか。羽田空港そばの多摩川の河口にある。その干潟でシジミ採りの老人が生活していて、かれは85歳なのにかくしゃくとしている。これまで九州の炭鉱を皮切りに、沖縄・大阪・東京など日本の底辺で<列島のカザークたち>のように働いてきた一人だ。胸までつかっても大丈夫な長靴をはいて、干潟の浅瀬に座りこんで、夏でも冬でもポパイのような太い腕で、砂や泥をほじくり、大きなシジミをつまんでみせる。それは黒い宝石のように輝いている。

なぜかれはこんなことをするのか？ 捨てられた15匹のネコたちと一緒に暮らすためだ。かれは一匹一匹に名前をつけている。レモンサワーを飲んでいたときに現れたから「レモン」とか。「こいつらだって生きる権利があるんだ」と。ネコに自分の行く末を重ねている。

かれの住まいは土手の下のヤブの中で、片目は工事中にやられてみえない。その片目をふきふき自分の生い立ちを語る。かれを通して戦後の日本もみえてくる。「どっこい、生きてるぞ！」と叫びたくなる。村上監督の心のこもった取材も見事だ。しかし、干潟はいまやオリンピックのために橋やホテルの建設で壊滅に瀕している。ここに引き裂かれた日本がある。(木下昌明)

★寸劇「メトロコマース版・女三人吉三 (おんなさんにんきちさ) 続編」(初公開)

同じ仕事で給料が半分！ 東京メトロ売店で働く非正規の女性たちは労働組合(東京東部労組メトロコマース支部)をつくり裁判を起こし、差別是正に取り組んでいる。職場はどんなところ？ 裁判はどんな風に進んだの？ 当事者が演じる怒りと笑いの歌舞伎「女三人吉三」です。作=大場吉晃。(写真左)



★ニッポンの今《映像+トーク》(初公開)

『関西生コン弾圧事件』+小谷野毅

たたかう労働組合は許さない。安倍政権による「全日建連帯労組関西生コン支部」への苛烈な弾圧が続いている。いまどうなっているのか。最新の現地映像から真実がみえてくる。トークは全日建書記長の小谷野毅さん。映像=土屋トカチ。

『がんを育てた男・その後』+木下昌明

2012年、肛門がんと前立腺がんが見つかった映画批評家の木下さん。常識とされた手術を拒否してQOLを守るため「がんと共存」の道を選んできた。2016年制作『がんを育てた男』から3年、81歳になった木下さんの今を追う。映像=ビデオプレス。



★音楽:「世界の闘いの歌」出演者紹介

アリソン・オバオン、IZUTAKAYA、オリーブ、ジョニーH、末武あすなる、ノレの会など。アリソンさんは、フィリピン・ミンダナオ島出身で環境問題など社会問題を伝えるメッセージソングを歌っている。

●レイバーネット合宿報告 ～徴用工問題をしっかり学習しました

10/5—10/6のレイバーネット合宿は、19人が参加しました。北海道から来た瀬尾さん、ピースサイクルの広瀬さんら初参加が7人いました。一日目は越辺川散策、「徴用工」講座(講師=矢野秀喜さん/『強制連行—清算されない歴史』上映)、夜のバーベキュー、スーパー銭湯、深夜までのディスカッションと続けました。二日目はショーン・タンのCGアニメ『ロスト・シング』(16分)とケン・ローチの『1945年の精神』を鑑賞しました。川柳コーナーでは10人以上が句をつくりました。初めての篠木祐子さんが特選でした。→特選句「政権の不自由展を見てみたい」。天気にも恵まれ、にぎやかで楽しい、しかも勉強になった合宿でした。裏方を支えていただいたSCATセミナールーム「毛呂分室」の金野さん、本当にありがとうございました。(M)

「小さな穴」を開けるメディアとして

松原 明 (レイバーネット日本共同代表)

*以下は「労働大学」発行『まなぶ』12月号の特集「ジャーナリズムの役割を問う」に寄稿したものです。

「非営利メディアの可能性」というテーマで原稿依頼を受けたが、「非営利メディア」という表現には少し違和感があった。私はレイバーネットでメディア活動を19年やってきたが、じつは自分たちのやっているメディアをずばり表現する言葉をいまだにもっていない。市民メディア、民衆メディア、オルタナティブメディア、独立メディア、ネットメディア、市民ジャーナリズム等々、いろんな言葉があるが「帯に短しタスキに長し」なのだ。しいていえば「社会運動系ネットメディア」というところか。

私たち普通の市民・労働者がマスコミ並みに情報発信ができるようになったのは、技術革新のおかげだ。1990年代に小型ビデオカメラが登場し、1995年からはインターネット、そして2005年からはYouTubeが始まり、個人がその気になれば、テキスト情報から動画情報までほとんど無料で発信できる時代になった。

レイバーネットはウェブサイト報道を軸に、レイバーネットTVなどを行っているが、私たちの基本は「伝えたいことを伝えるために」である。それまでは何か伝えたいことがあっても、マスコミに頼るしかなかった。しかし、いまは違う。自分たちで伝えることができるのだ。「当事者メディア」ともいえる。たとえばあるデモをする、これまではこれをマスコミが取り上げなければ、世の中に知られることはなかったが、いまは自分たちで伝えることによって思わぬ広がり、運動がうまれるのだ。

労働問題についてマスコミの関心は少ない。だからこそ「私たちのメディア」が真価を発揮することがある。例を挙げよう。2013年3月に東京メトロ売店で働く非正規女性たちが「雇い止め」に反対してストライキに立ち上がった。このとき厚労省で会見も行ったが、1社を除いて大手メディアには報道されなかった。このスト現場を報道したのがレイバーネットで、そのYouTube動画はあっというまに広がった。そしてメトロ売店女性のたたかいが知られ、その後、NHKなども後追い報道をすることになる。2015年には「アリさんマークの引越社」の会社幹部の組合員に対する恫喝動画が200万再生を超えるということがあった。この動画によってブラック企業の実態が暴露され、「アリさん」争議の勝利和解のチカラになった。こうした事例は事欠かない。「たたかい」と「メディア」が車の両輪であることは、いまやアクティブな組合活動家には常識になっている。

レイバーネットは社会問題にも積極的にかかわっている。その中で、最近、もっとも反響の大きかったものは2019年9月7日の「渋谷・日韓



連帯アクション」の報道だった(写真)。約1時間の小さなアピール行動だったが、このとき在日コリアンの女性がマイクを握った。そしてこう訴えた。「いま私たちは生きるか死ぬかの瀬戸際です。在日の人は、アメリカの日系人収容所送り、ナチスのガス室、ルワンダの隣人襲撃などの事件を想像してしまいます。あす殺されるかもしれません。どうかお願いします。マスコミは煽りをやめて、ちゃんと報道してください。日本のみなさんをお願いしたいのは、友人から韓国の悪口が出たときにごまかしたり聞き流すのはやめてください。おかしいことにはおかしいと言って下さい」と。彼女の短いスピーチは衝撃的だった。それがSNSなどを通じてまたたく間に広がっていった。

いま時代は危険だ。安倍政権のもと、日韓問題、天皇問題、オリンピックなど世の中はますますナショナリズムに傾斜し「戦争への道」に進んでいる。労働者の人権が無視され、表現の自由が危機に立っている。そんな状況だからこそ、民衆側のメディアが重要になっている。マスコミが付度で報道できないことも、私たちにはできる。小さなメディアは「小さな穴」しか開けられないかもしれないが、そこに大きな可能性も秘めている、と私は思っている。

●レイバーシネクラブ『スノーデン』を 観てディスカッション



10月19日の回は、米国社会派監督・オリバー・ストーン『スノーデン』を取り上げた。国家権力が情報を一手に握り人々を支配する「超監視社会」の現実と、それに体を張って抵抗し告発したスノーデンの勇気ある行動に学ぶことは多かった。

映画『アリ地獄天国』大きくひろがる



一人でブラック企業とたたかうドキュメンタリー映画、土屋トカチ監督の『アリ地獄天国』。ことしのレイバー映画祭で初披露して大好評だった。その後、10月11日の山形国際ドキュメンタリー映画祭で上映し、話題が一気に広がった。朝日新聞デジタルにはインタビュー記事が大きく掲載された。また「貧困ジャーナリズム大賞2019」での入賞、10月28日の関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスでの上映など、順調に広がっている。そして、名古屋シネマスコアで、2020年お正月映画としての公開が決定した。来年は『アリ地獄天国』が大ブレイクする予感である。(写真上=山形映画祭用英語ポスター)

しかし一方、悲しい知らせが入った。トカチ監督の『フツの仕事をしたい』の主人公である皆倉信和さんが急逝したのだ。以下、トカチ氏の追悼文を紹介する。

あなたに会えてよかった、ありがとう！

土屋トカチ

10月19日(土)午前。ドキュメンタリー映画『フツの仕事をしたい』の主人公、皆倉信和さんが心筋梗塞のため亡くなりました。享年49歳でした。

仕事中、セメント出荷基地内で倒れているところを発見され、救急車で病院に搬送されましたが、一度も息を吹き返さなかったそうです。年内に『フツの仕事をしたい』の追悼上映会を都

内で行います。詳細は後日発表予定です。争議解決から13年。映画公開から11年。映画の中でも、生死の境をさまざめた皆倉さん。突然のことで、言葉が出てきませんが、出会えたことに心から感謝



しています。あなたの人生がギュッとつまった映画『フツの仕事をしたい』。「フツの仕事」がしたかった、皆倉さん。あなたは異常な職場実態を、どうすれば変えられるのか、カメラの前で実践してくれました。私はその生きざまを捉え、映画にしました。勇気づけられた労働者は、世界中にいます。これからも、あの世でもよろしく！感謝を込めて。(10月24日)

*写真=2008年6月5日『フツの仕事をしたい』完成記念試写会 中野ゼロ視聴覚ホールにて 左：皆倉信和さん 右：土屋トカチさん

*追悼上映会は12月18日連合会館です。



JCA-NET がメーリングリスト無料サービス開始

レイバーネットが使っているインターネットプロバイダーがJCA-NETである。JCA-NETは、通信NGOとしてAPC(進歩的コミュニケーション協会)とともに、世界のAPCメンバー40カ国以上のパートナーとの協力により、社会的、環境的、経済的正義、性による差別の克服を求める社会運動を、情報通信技術を使って支援しているところである。つまり民衆側のネットサービスだ。

ここで11月1日よりメーリングリストを無料にする画期的サービスが始まった。これまで月500円(年間6000円)だったのがゼロになる。メーリングリストはグループ活動にとっては必須である。これまでFreeMLを使っているグループが多かったが、ここが12月で廃止になる。そこで多くはグーグルのサービス「グーグルグループ」に移行するところが多い。「グーグル」はいわずとした巨大メディア企業で、情報は吸い取られ、広告産業に売り飛ばされるシステムだ。できれば避けたい。

そんなわけで、メーリングリストを考えている人に、この機会にJCA-NETサービスへの移行を呼びかけたい。グループのだれか一人が、JCA-NETの会員になればこのサービスを使える。会員は、ID費用などで年15300円がかかるが、トータルで考えればお得である。それに「民衆側ネット」を広げることにもなる。詳細はTel: 03-5298-7330 またはJCA-NETのホームページで(「JCA-NET」と検索すればたどれる)。

レイバーネット日本の会員になりませ

現会員数 570名

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員=5,000円 通常+TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所
普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578